令和４年度　第２回　曳馬小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和４年６月１０日（金）　１０時２０分から１１時５０分まで
２　開催場所　　曳馬小学校　多目的室
３　出席委員　　鈴木　厚、飯尾　忠弘、川井　啓介、小楠　和子、加藤美智子、
　　飯尾　智弘、池村　俊典、丸茂　早織、中津川　涼
４　欠席委員　　中田　篤志
５　学校　　竹内　孝夫（校長）、花井　清孝（教頭）、影山　重広（ＣＳ担当）
　　内堀　邦子（ＣＳディレクター）
６　傍聴者　　なし
７　協議事項
　（１）議長の選出について
　（２）熟議
８　会議録作成者　　ＣＳディレクター　内堀　邦子
９　会議記録

司会の花井清孝（教頭）から、委員総数１０人のうち９人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）議長の選出について

司会から、鈴木厚委員を議長に推挙する旨へ意見を求めたところ、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（２）熟議内容について

①キャリア教育と支援の在り方について

キャリア教育について影山主幹教諭から、別紙資料（平成 30 年度版はままつ人づくり未来プラン）に基づき説明があった。

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な力を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための教育。キャリア教育は浜松の未来を創り出せる子供の育成を目指したものである。

目指す子供の姿…夢と希望を持ち続ける子供
これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供
自分らしさを大切にする子供

家庭･地域･行政…積極的な連携・協働（地域で見守る）
学校　　…教育活動全体を通したキャリア教育の推進

キャリア教育を通して育てる力…相手を理解する力・夢を実現していく力・
コミュニケーションの力・進んで学ぼうとする力・
情報を選んで活用する力・課題を解決する力

曳馬小学校では、学校経営の重点目標として、
「児童の主体性・協働性を育むために自己肯定感と伝え合う力を高める」
を掲げている。
曳馬小学校の目指す子供像

- ひ…ひとの気持ちの分かる子
- く…くるしくても負けない子
- ま…まなぶ楽しさの分かる子

このキャリア教育の理念をもとに今後の学校運営協議会活動を推進していければと考えている。

- 支援の在り方については熟議していきたい。（厚会長）

- レジュメの中に今年度のコミュニティ・スクール協力依頼の内容がまとめてある。本年度の実施予定のもの、是非とも実施していきたい内容、検討をお願いしたい内容と分類してある。
- ３年生の総合学習「地域の自慢を見つけよう」や家庭科の授業、書写の授業支援は実施してもらえるように打ち合わせを進めている。
- 花壇の花の植え付けなどの支援はお願いしたい。
- 草取りは支援に当たらないということだったので、委員会のイベントとして先生と児童で行うこととした。（影山主幹教諭）
- 曳馬センターだよりについての説明
  （池村コーディネーター、飯尾智弘委員、瀧アドバイザー）

- 先日ボランティアで３年生の書写の授業支援を体験して、習字の指導を先生１人で行うのはとても難しいことを実感した。書道の授業を初めて受ける子供にきれいな字を書いて片付けまで指導するためには支援が必要だと理解できた。児童との触れ合いは教員免許を持っていなくても楽しんで支援することが出来ると感じた。この経験したことによって、支援募集する際に実感込めて伝えることが出来る。（池村委員）

- 支援に入ると、児童との交流があり楽しい。（飯尾智弘委員）

- 先日、花井先生の書写の授業で、書写の基本をプリントして指導しているのを見て、他のクラスはどうしているのか確認したところ、同じ指導が行われていた。竹内　校長先生の掲げているチームワークの指導が行われていることを実感した。
  （飯尾智弘委員）

- 書写の授業中、２人の支援が入るまでは全員が机に向かって授業を行うことが出来なかった。教室の前方で指導しているときに、後方で２人の支援があると、きめ細かく指導を行うことが出来る。温かい言葉かけをしてくれることで、児童のやる気を引き出すことでき、毛筆の楽しさを伝えることが出来た。本当に感謝している。図工の授業を今年受け持っているが、書写と同様にチームワークで指導内容を充実させることが出来ていると感じている。（花井教頭）

- 協働センターも地域の人材を知り、連携していくために協働センターだより（６月５日号参照）を作成した。地域の人から早速連絡があった。コミュニティ担当職員がコミュニティ・スクールについて説明し、理解してもらった上で人材リストを作成していく予定。現在応募してくれた方は、以前にボランティアに参加してくれた経験があり、今回はミシンの支援に入りたいとのこと。１人では参加しにくいため、一緒に参加する方を探すとのこと。以前よりは地域の方が興味を持ってくれているので、協働センターも注力していく。（瀧アドバイザー）

- トータルコーディネートして支援を進めていくにあたって、各委員の経験をもとに多岐にわたって支援できればと考え、熟議していきたい。キャリア教育やコミュニティ・スクールの骨子にとらわれず、自由に意見を出し合ってはどうか。（鈴木厚会長）

- 地域の話のボランティアとして参加している。道路のすぐ横に電車が走っていた当時、電車が通過する時に踏み切りがしまったりした発展前の曳馬地区の話を写真とともに児童に伝え、児童と交流することにより、自分は満足感やうれしい気持ちをもらっている。（飯尾忠弘委員）

- 学校から提示された協力依頼の内容を実行していくことは、ボランティアにとって楽しいのではないか。（鈴木厚会長）

- 地域の方の手伝い。PTA 会長の時は学校との距離は近かったが、任期が終わると、学校の敷居が高く感じる。以前は地域の人でも参観できたが、コロナで学校の敷居が高くなったように感じる。敷居を低くすると地域の支援も得られやすいのでは。（丸茂委員）

- 学校行事や地域行事がコロナによって変化した現状で、本来体験できた行事を体験できず精神的にもつらかったと思うので、学校というステージで子供たちの成長の場を与えるお手伝いができたらと思う。（鈴木厚会長）

- 地域の人からボランティア協力の申し出があった場合、池村コーディネーターに連絡すればよいのか。（加藤委員）

- 学校が窓口になるのでは。（鈴木厚会長）

- 学校が窓口になると先生の負担が増えるのではないか。コーディネーターが窓口になり、取りまとめた内容を学校に連絡して、情報を共有するのはどうか。このルール作りが大切。協働センターの組織づくりが進んでいるので、協働センター窓口、取りまとめリストを作るのはコーディネーター、情報は学校と協働センターと共有する。
  学校はそのリストをもとに支援をどのように行うか検討する。上島小学校、曳馬小学校、曳馬中学校の情報をまとめ、曳馬中学校区域で共有していく。先生の異動やコーディネーターの任期に伴って、情報の分断を防ぐためにも必要。協働センターの存在で情報の分断を防ぐ。（池村委員）

- 協力依頼の内容を周知させ、人材を埋もれさせないようにする。情報があれば、池村コーディネーターに連絡してリストの作成を進めてもらう。
  人材情報のリスト活用について、学校はコーディネーター任せにしないことが大切。今後は学校から提示された協力依頼書を基に人材リストを実際に活用していくことを具体的に検討していく。（鈴木厚会長）

- 協力依頼書の内容はどこまで周知されているのか。（飯尾智弘委員）

- 協力依頼内容を知っているのは、学校職員と運営協議会委員、学校のホームページのみ。（影山主幹教諭）

- 協力依頼の一覧表のように、具体的なことを周知させることが必要。協力依頼書のようにどんなスキルが必要で、どの学年の支援なのか具体的なことがわかれば支援したいという気持ちが動くのでは。
  今回曳馬協働センターだよりで学校支援のボランティア募集を行ったことははとても画期的だったが、もう少し具体的な内容が記載されていた方がよいと思う。例えば、昔の遊びという表現ではなくあやとりなどの具体性があるとボランティアの申し出が出やすいのでは。応募する際の敷居をなるべく低くすることが大切。周知するのにPTA総会の資料などに入れるのはどうか。（飯尾智弘委員）

- 協働センターだよりは地域に回覧したが、これに対してどのような反応があるのか。この募集に対して応募してくれる人が出てくれた場合、今年度の協力依頼書を具体的にいつどのように実施していくかに検討していく必要がある。（鈴木厚会長）

- 学校便りの裏に、協力依頼の内容を記載して、保護者に配付したり、地域に回覧したりすると理解が得られやすいか。（影山主幹教諭）

- 協働センターだよりの裏面に協力依頼内容を書いてはどうか。（川井委員）

- 協働センターだよりの裏面はほかの情報発信する内容があった。今回の内容の密度の方が人の目に留まりやすいのでは。PTA 総会資料や自治会の会合などいずれの方法でも、協力依頼の具体的な内容をさらに周知させた方がよい。学校の内外問わず、いろんなフィールドでの支援を充実させていければよいのでは。（鈴木厚会長）

- まずは学校の中での支援を充実させて、先生の負担を軽くしていく。（川井委員）

- 中学校と違って小学校の場合は、地域の人が学校の中に入ってきて支援を行ってもらう場面が多いと思う。
  協働センターだよりでの呼びかけは画期的であったが、コミュニティ・スクールだよりを独自に出すのはどうか。フォーマットがあれば新規でも作成しやすい。
  （池村委員）

- コミスクだよりは作成した方がよいので、フォーマットを探しておく。ディレクター研修で研修した内容。学校教育、社会教育などがあるが、まず学校教育で育てたい力を育てていく。過去にボランティアの少ない学校は保護者に協力依頼をしたが、ボランティア経験がないと自分の子供を中心とする支援傾向が強い。初めてボランティアに入る時に何に気をつけていくのかわからないことが多い。コミュニティ・スクール先進校のボランティアガイドブックに「ごほうびは子供の笑顔です。」と書かれている。そのことを理解して、人権に配慮できる言葉使いを学びながら、ボランティア活動を行ってもらえる人を募集していく必要がある。ボランティア参加証に子供が作ったキャラクターを毎年渡すなどをしていた。信頼のおける人のボランティアが大切。また、外国籍の子供の対応は養成講座が必要。支援級の子供に対応するのは教師が行うなど配慮が必要。（鈴木陽子）まずは学校教育の中で支援を行いながらボランティアとの信頼関係を築き、ボランティアのスキルをステップアップしていく必要がある。
  （鈴木厚会長）

- 協力する具体的内容があった方がボランティアとして参加しやすい。PTA は公式アカウントをもってラインで情報を一斉に発信している。ラインで募集の返事ももらえるので、同じように支援の募集を行ってはどうか。（中津川委員）

- 早急に具体的な協力依頼内容を周知させていかないと、今年度の支援が間に合わない。例えば 7 月の水泳の授業支援などは今募集しても間に合わないのでは。（小楠委員）
  協力依頼募集のタイミングや具体的内容をどのように周知させていくか、応募者に対しての対応などを協働センターの協力を得ながら進めていけたら助かる。皆様の協力を得ながら推進していきましょう。（鈴木厚会長）

- 次回の協議会も学校支援の内容を熟議していく予定なのか。ボランティアの応募が多く集まっていればまた検討していけるがそうでなければどのような熟議内容になるのか心配。早めに熟議内容の連絡をお願いしたい。（飯尾忠弘委員）

- 学校から熟議する新しいテーマや協力依頼の進捗状況などの報告を早めに発信してもらいながら、今後も次の協議会の準備をしていきたい。（鈴木厚会長）

以上、学校教育からの協力依頼を地域で支援していくためのルール作りを進め、実行に移していくことを理解していただいたということを、全員異議なく承認した。
（鈴木厚会長）

その他連絡事項等

花井清孝教頭から、次回会議は、令和４年９月２８日（水）１３時００分から集合し、１３時１０分から各学級の授業参観をし、参観後、多目的室にて、第３回の学校運営協議会を開催する旨の連絡があった。